

# 血管性認知症高齢者へのケアの知識と技術

## 認知症の種類に応じて適切なケアを実践するために

全国で認知症高齢者の人口が462万人に上り、更に軽度認知障害の高齢者も400万人と推計されるなど、介護業界では認知症高齢者に関する知識や技術を無くしては、適切なケアを提供できない状況となってきました。

認知症には、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、正常圧水頭症等をはじめとする100以上の原因があるとされています。

それぞれの原因により、認知症高齢者のアセスメントやケアにおいては、違いがあります。しかし、多忙を極める現場においては、それぞれ『異なるタイプの認知症の高齢者』であっても、ただ単に『認知症の高齢者』と一括り（ひとくくり）にとらえてケアしているところも多いようです。

認知症の種類に応じて、その人その人に合った適切なケアが提供できなければ、認知症高齢者にBPSD（行動・心理症状一周辺症状）が現れ、利用者に『笑顔』で過ごしていただくことはできません。また、介護従事者にとっても精神的にも身体的にも介護負担が大きくなってしまいます。

そこで今回は、『血管性認知症の高齢者へのケア』をテーマに研修を企画しました。血管性認知症の理解とともに、脳の障害の起きた部位や範囲により症状は異なるため、その症状に対して介護従事者がどのように関わっていくのかも勉強します。また、事例等を通して、実践的な知識や技術をより深いレベルで習得できるカリキュラムに致しました。

是非、この機会に本研修をご受講いただき、認知症ケアのレベルアップ図り、認知症高齢者の『笑顔』に結び付けていただけることを願っております。

**受講生の声：●自分達の対応が周辺症状を悪化させていることに気付きました。今迄の利用者に申し訳ない気持ちです。●脳の損傷部位により、対応を変えなければ！と思いました。●具体的な事例でわかりやすかった。●関わり方の工夫で、こんなに活気を取り戻せるのかと思いました。●すぐホームに戻って活用してみたいです。すごく活用できると思いました。●医療知識の無い自分にでもできると感じました。●もっと早くこの研修を受けていればよかった。**

日程	時間	内 容
10/15	10:00 ～ 16:30	①認知症の理解 ②血管性認知症の理解とその特徴 ③ケアの考え方と技術（アセスメントからケアに至る過程について） 介護からのアプローチ（気づき～ケアに至る過程、環境整備やサービス提供体制の基本） 医療からのアプローチ（医師との連携、薬等） ④BPSDの理解とケアへの展開 ⑤ターミナル期の支援 ⑥社会資源の活用 ⑦事例検討

**講師 田島 利子氏**《介護福祉士・介護支援専門員・認知症ケア専門士》  
現職 介護事業部統括部長 グループホーム管理者

受講料 11,000円 受講対象 全ての介護従事者 **ネット配信の加入者は受講料半額**  
研修会場 お茶の水ケアサービス学院 東京都千代田区岩本町1-10-3 JR 神田駅 徒歩10分  
申込方法 下記FAXおよび電話にて受け付け  
主 催 お茶の水ケアサービス学院 お問い合わせ TEL03-3863-4000 FAX03-3863-4006

ファックス 03-3863-4006

お名前	フリガナ	役 職	ネット配信の 加入の有無	有・無
		事業所名		
住 所	(〒 - )	(事業所・自宅)		
TEL		FAX	e-mail	

注意：お申し込み後（申込日を1日目とします）、7日目以降のキャンセルについては、お振込前でも受講料の半額がかかります。尚、申込日に拘らず10/1以降は全額のキャンセル料がかかりますのでご注意ください。

※キャンセルのご連絡がない場合は、キャンセル扱いにはなりませんのでご注意ください。